

06月25日(日)開催 第3232回例会  
兵庫県山岳連盟同調例会  
摩耶山地の静かな尾根を訪ねる(中級向)  
「行者尾根から黒岩尾根へ」

兵岳連/普及委員長 吉野 宏

◇集合 市バス神戸高校前 8時30分  
◇コース ~青谷道~行者尾根(摩耶アルプス)  
~縦走路出合~摩耶山~黒岩尾根コース~地蔵谷出合~市ヶ原~新神戸(みはらし台で解散)

.....

江戸時代から明治・大正初期迄の永い間にわたり、神戸市街から摩耶山旧天上寺への参詣道として繁盛していた旧摩耶(もとまや)道。



左手奥の一番高いのが行者尾根の穂先(写真・ネット画像)  
世の移り変わりで、今はハイカーのみが歩く道として何とか姿を止めている。この旧摩耶道のほぼどん突き(行者茶屋跡)の手前から望む摩耶本峰の景観も素晴らしいが、その西隣に野武士の様な荒々しい尖峰がのしかかり、屏風のように連なっている。これが登行をそよる行者尾根の全景である。この尾根道は、かつて修験の寺院でもあった切利天上寺にゆかり有る修験者の行場道であったが、半世紀以上にわたって閉ざされていたようで、戦後の第一次登山ブームで、そんな尾根だとは知らぬまま登山者が入るようになり、現在では結構人気があるようで通称「摩耶アルプス」などの名前までついているようだ。実は私の居住する地からすぐの裏庭ともいう場所で、トレーニングコースとして40年以上もお世話になっている尾根でもある。

近年は隠れた尾根や谷筋のシリーズ化した行事計画を組んでいるが、登山コースとしての記載が無い場所が多いため、より安全面への気配りが必要となる。従って参加前の予備知識を十分に以って参加して頂くよう指導している。

.....

8時30分の集合時には40名を超える参加者であふれ、場所を体育館の広い駐車場のある神戸高校前としたのは正解であった。軽いストレッチを済ませた後2グループに班分けし、出発。神戸で唯一の茶畑・静香園の前を過ぎ、旧摩耶道との出会いにあった行者茶屋跡地までゆっくりと歩く。梅雨の中休みとなったこの日、湿度の高いのに閉口。皆さんここまでと相当な汗をかかれたようだ。...

通称行者谷へ入り、すぐ木橋を渡って進むと、老婆谷側への細道が続く。ここから少し登ると行者尾根への取り付きに出る。何分にも40名以上の方に事故無く縦走路出合まで登っていただかねばならず、安全登行を考え一カ所のみであるが、つかまなくても見るだけで安心感をもっていただけるようにと思い、スリングを補助ロープとして固定。しかし、大半の方が三点確保で難なくクリアしてくれホッとす。



余裕のお姉さん、どなた？

班分けをし、時間差をつけての登行は正解で、尾根の中間点で一息入れる余裕が持てた。振り返ると、神戸港を一望に、歩いてきた青谷の窪みから行者尾根の前半が手に取るようだ。縦走路へ出た休憩中に、藤崎理事による地形図のご講義を聴くことが出来、普及委員会として



お父さん！大丈夫？ 私達、先に登ろうか？



ロープ無くても登るわよ！あれば気分的に安心ね！  
の面目躍進・・・当初の計画は、ここから少し下り、老婆谷出合から左の地藏谷側へ入り、アドベンチャールートを辿って摩耶山側へと考えていたが、何分にも大勢の参加者であり、計画していた時間をかなりオーバーすることを考え、縦走路から摩耶山掬星台へ至る手前から黒岩尾根へ入るコースをとった・・・



全員集合！ 若いって、いいね！！

11時35分広々とした「緑と風の丘」へ到着。  
この場所は何時訪れても気持ちの良い場所で、  
天上寺や摩耶別山を眺めることが出来、時折ス

ーと抜ける涼風の心地良さが、ハイカーの人気スポットの所以でもある。ここで昼食タイムとした・・・

午後からの後半コースは、東に地藏谷、西にトエンティックロス（生田川源流）の両谷に挟まれて摩耶山まで競りあがっている皆様ご存じの黒岩尾根の下り。出発前に、本日も同行頂いた環境省神戸保護管事務所の中村アクティブレンジャー氏に「マダニ」についてのご講義を行なって頂いた。



熱心に講義に耳を傾ける皆さん

六甲山地ではシカが媒体するヤマヒルには今までお目にかかったことはないが、「マダニ」は身近にいるので大いに注意したいものだ。

右に 659Mのピークを見て少し下り、登り返してしばらく行くと、左下方向にササユリ発見。コロナに翻弄された3年余りは入山者も少なく、心無い登山者もいなかった証であろう、涼しげに咲いたササユリの姿は本日の山行のフィナーレを飾るに相応しいものであった。



山行のフィナーレを飾ってくれたササユリの花

天候 晴れ

参加者 42名（内岳連理事5名）